

4. 結果

4.1 枯死樹の個体数調査

図-3.1.1 のすべての植栽樹木の有無を調査した結果、植栽された個体数が 1823 本であったのに対し、現在生育している個体数は 1155 本であり、668 本の枯死が確認された。これは、植栽時の楠広場全体の個体数の 36.6%を占めている。植栽された樹木の配置を図-4.1.1 に示した。また、枯死樹の位置を図-4.1.2 に示した。図-4.1.2 を見ると、広場全体で枯死樹の位置に偏りは見られなかった。しかし、区画ごとに枯死率を示した表-4.1.1 を見ると、野球のバックネット裏に当たる公衆便所付近の区画 E における枯死率が高くなっていることが分かった。また、グラウンドの北側の通路沿いに当たる区画 C においても比較的高い枯死率を示した。

樹種ごとの広場全体の枯死率を表-4.1.2、図-4.1.3 に示した。ココスヤシ(*Butia yatay*)、ウバメガシ(*Quercus phylliraeoides*)、ソメイヨシノ(*Purunus yedoensis*)、ヒラドツツジ(*Rhododendron pulchrum*)、アベリア(*Abelia grandiflora*)は枯死率が 20%以下であり、臨海部の緑地においても安定した成長が確認された。また、クロマツ(*Pinus thunbergia*)は 90%を超える高い枯死率を示し、そのほかにもキャラボク、ヒイラギナンテン(*Mahonia japonica*)、サツキ、ユキヤナギ(*Spiraea thunbergia*)といった低木の枯死率も 60%を超える高い値を示した。このことから、これらの樹種は臨海部の埋め立て地には適していないことが示された。クロマツの区画ごとの枯死率を表-4.1.3 に示した。クロマツは広場全体において非常に高い枯死率を示した。

高木と低木の割合の変化を図-4.1.4 に示した。植栽時における高木と低木の割合はそれぞれ 88.5%、11.5%であった。一方、今回の考査においてそれぞれの割合は 92.1%、7.9%であり、全樹木に占める低木の割合が低下していた。

図-4.1.5 に同じ臨海部公園緑地である富浜緑地との個体数調査の結果の比較を示した。生育樹木の枯死率はヤブツバキ(*Camellia japonica*)以外の樹種において楠広場の方が高い枯死率を示した。

- アベリア
- アメリカアウ
- イチョウ
- ウバメガシ
- キヤラボク
- クスノキ
- クロガネモチ
- クロマツ
- コス
- サザンカ
- サツキ
- セイヨウツゲ
- ソメイヨシノ
- ツツジ
- ナンキンハゼ
- ヒイラギ
- ヒイラギナンテン
- ヒラドツツジ
- ボックス
- マテバシイ
- モッコク
- ヤブツバキ
- ヤマモモ
- コキヤナギ

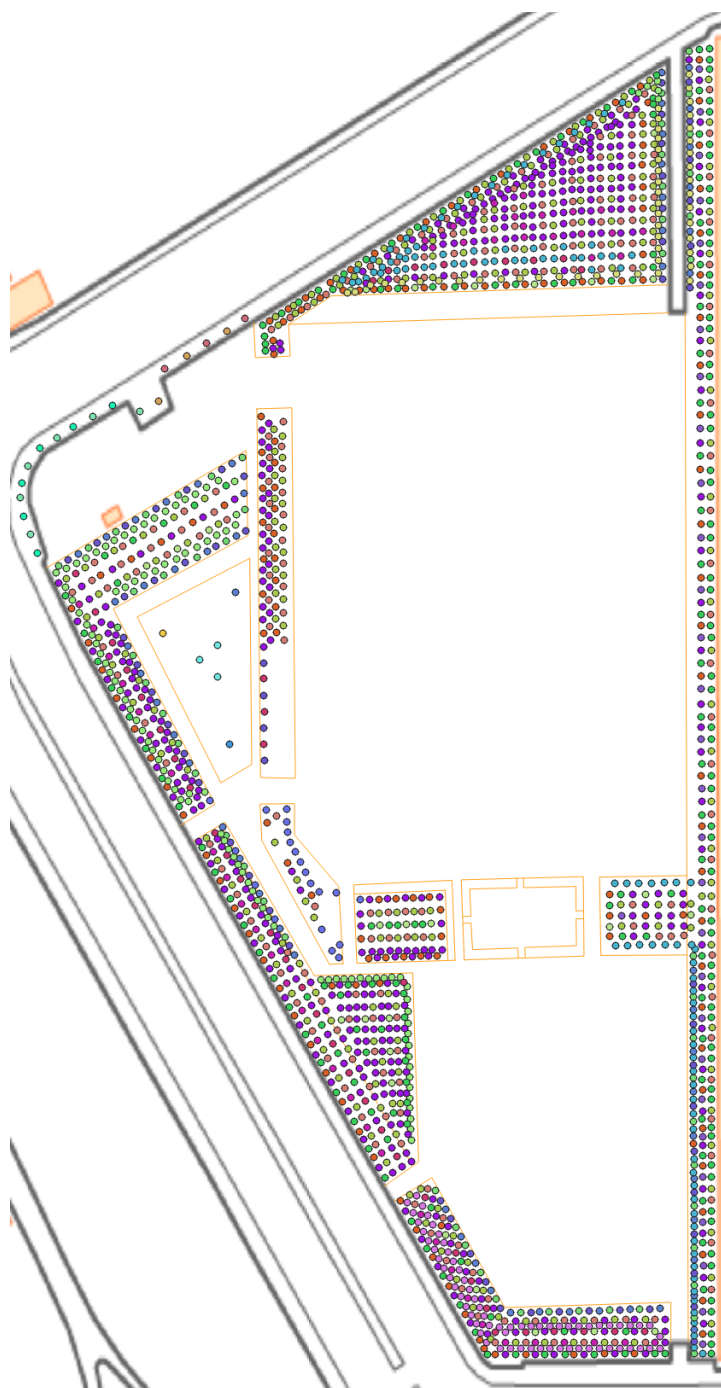


図-4.1.1 広場に植栽された樹木とその配置

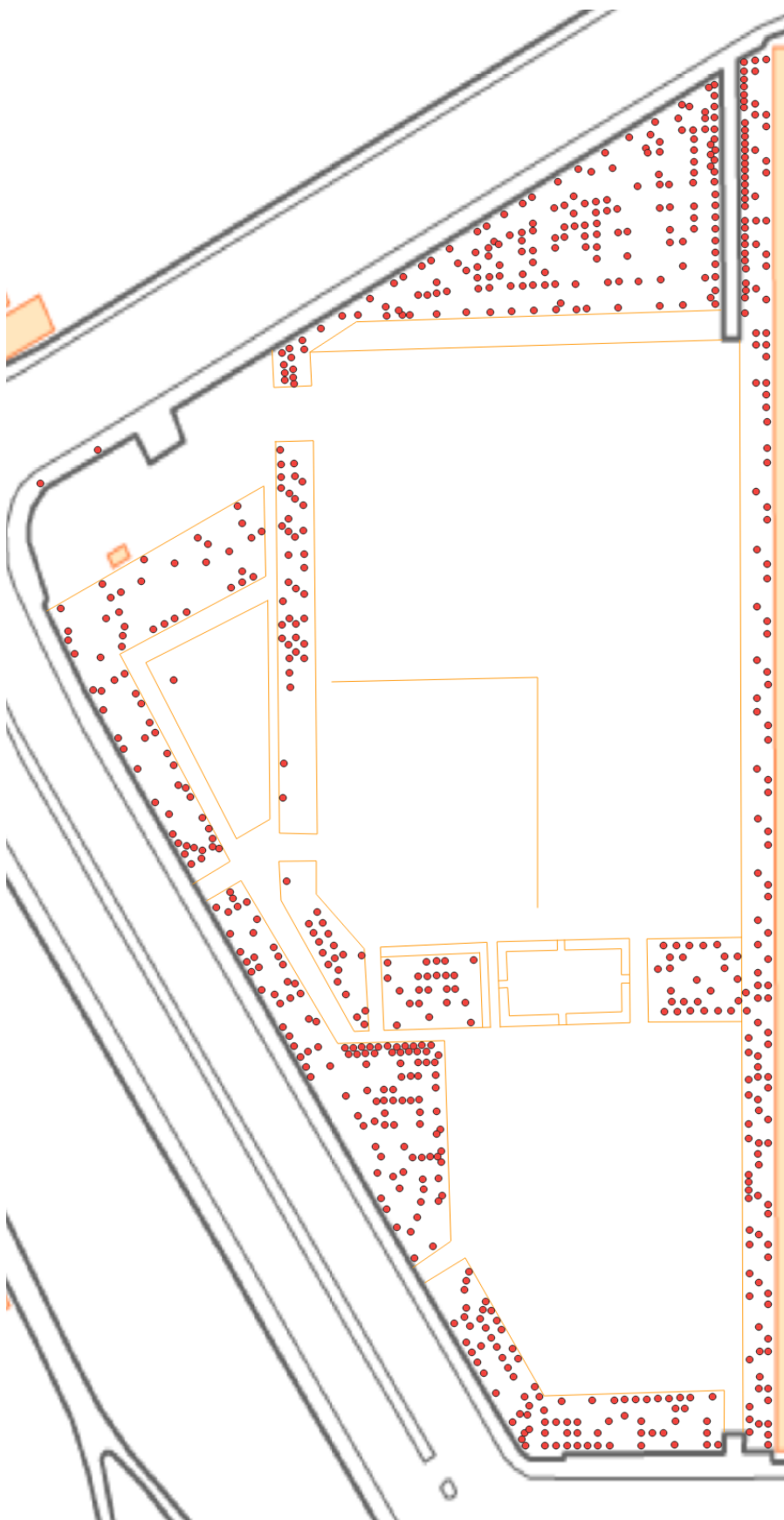


図-4.1.2 枯死樹の位置

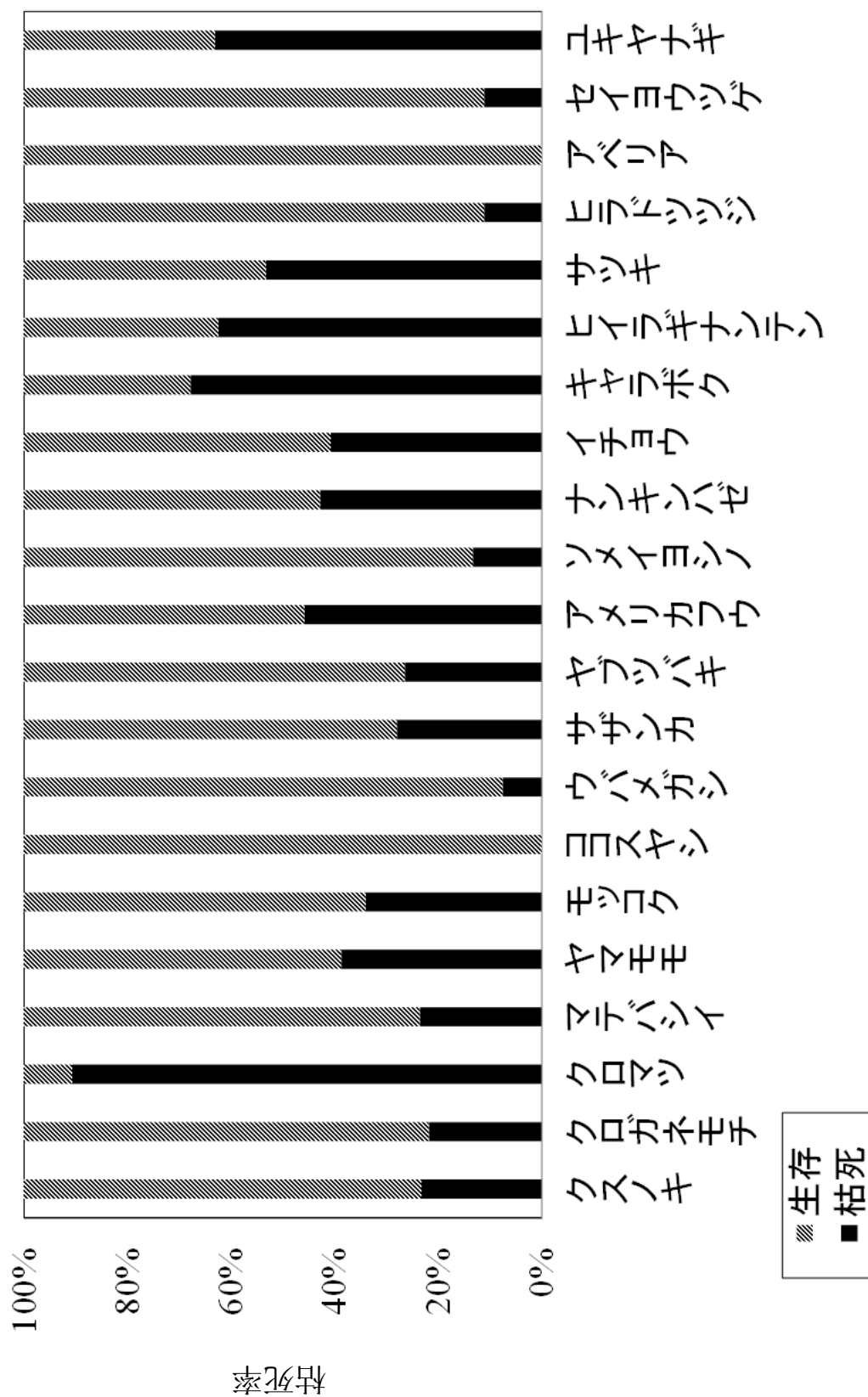


図-4.1.3 樹種ごとの広場全体の枯死率

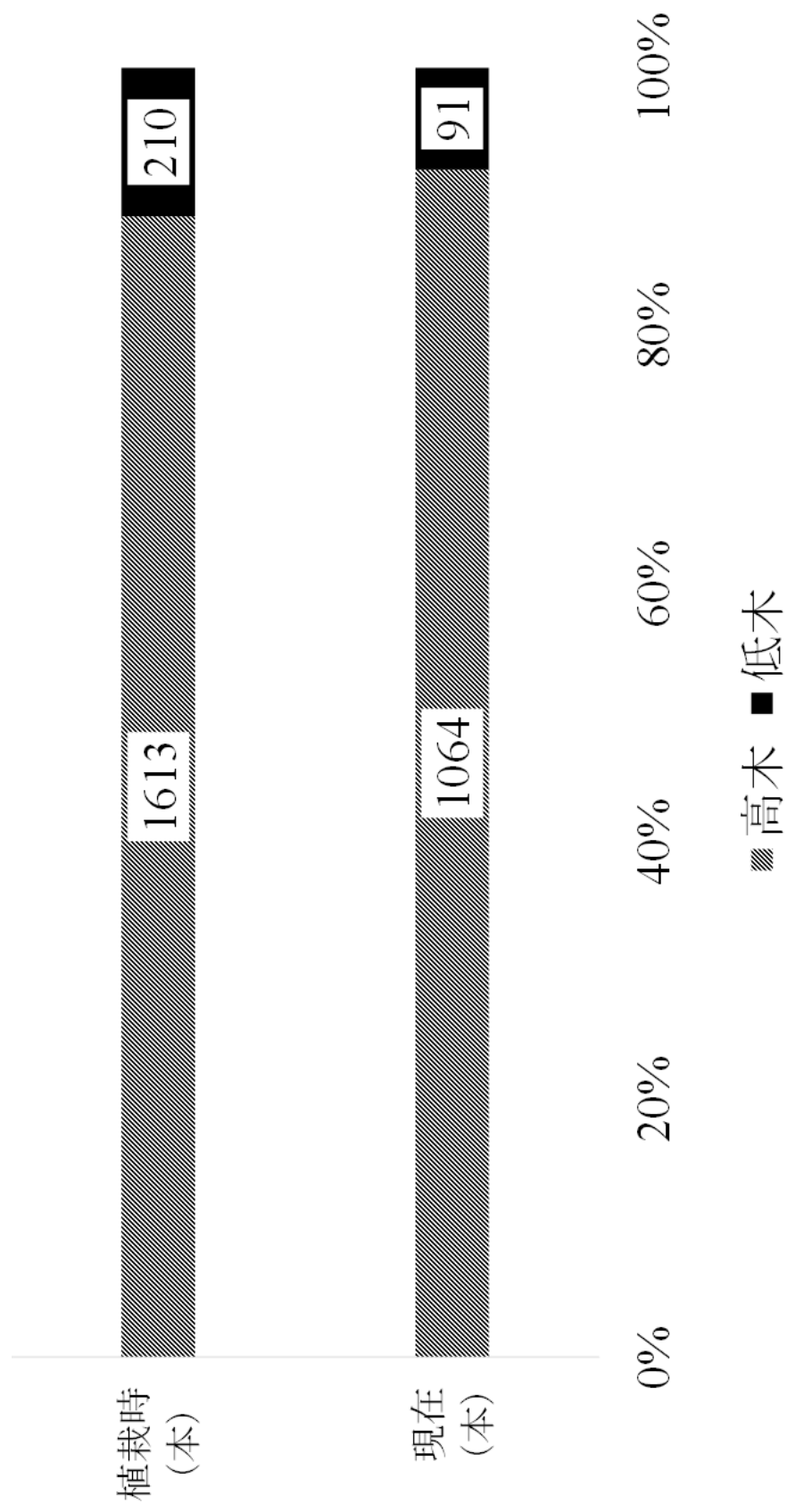


図-4.1.4 高木と低木の割合の変化

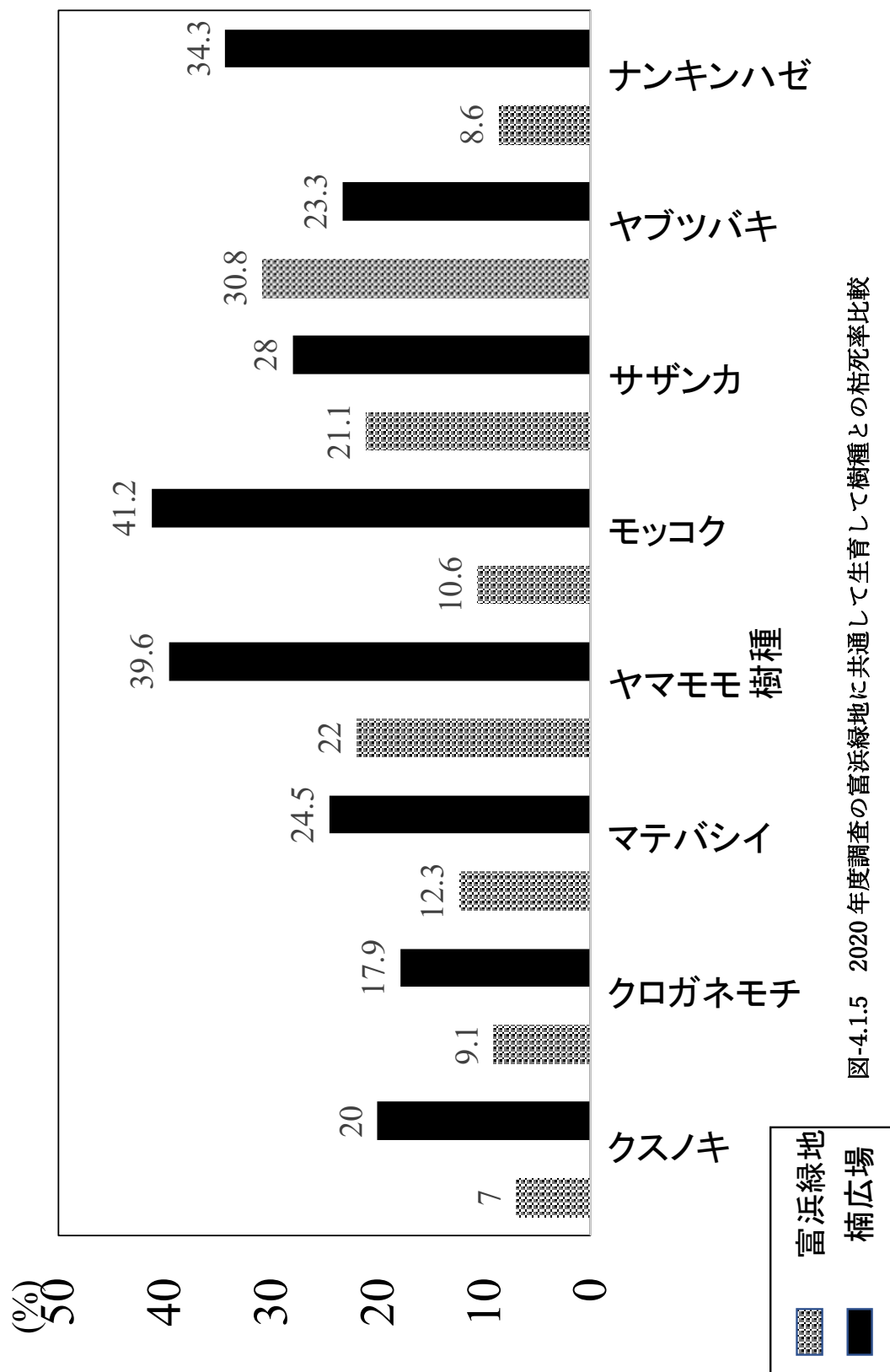


図-4.1.5 2020年度調査の富浜緑地に共通して生育して樹種との枯死率比較